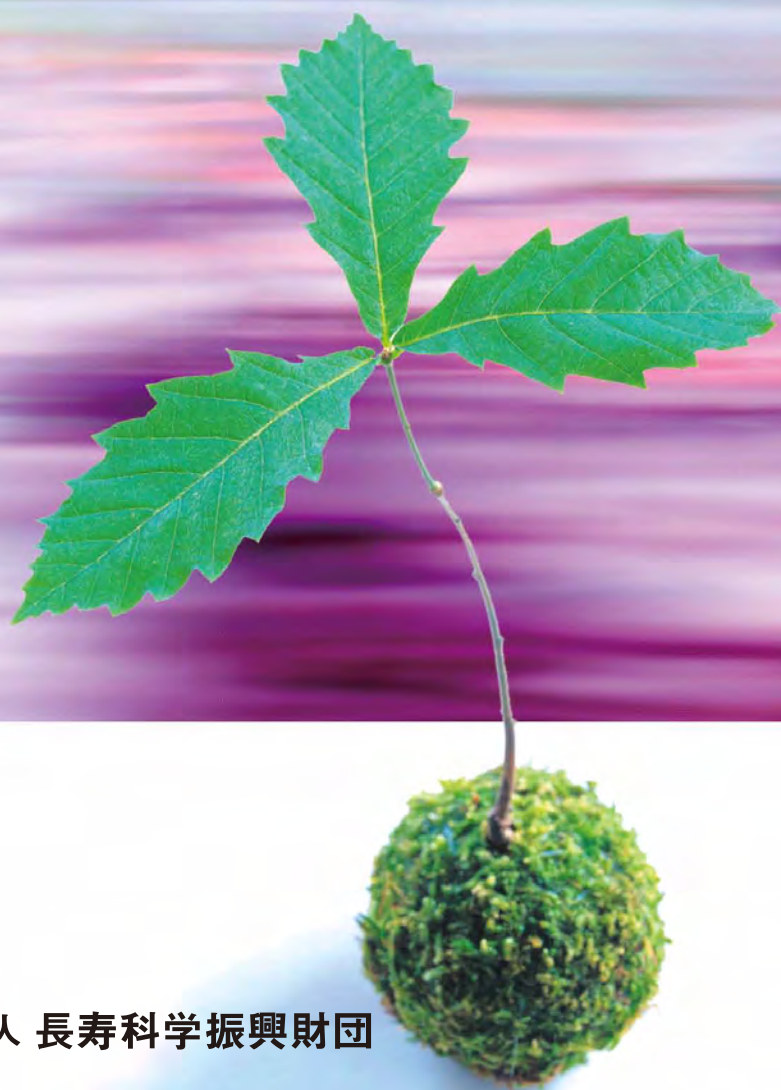


平成24年度 厚生労働科学研究費補助金事業

# 認知症対策総合研究



公益財団法人 長寿科学振興財団

# 認知症対策総合研究とは

急速な高齢化とともに、認知症患者数は増加の一途をたどっており、医療・福祉の両分野が連携した総合的な対策を進める上で、「実態把握」、「予防」、「治療」、「ケア」の観点に立ってそれぞれ重点的な研究を行います。

- (1) 東日本大震災における避難生活が高齢者の認知機能と日常生活動作に与えた影響に関する研究
- (2) 認知症の発症に防御的に働く因子、ならびに促進する因子に関する研究
- (3) 鑑別診断とその進行度評価に基づいた、体系的かつ適切な認知症ケアの構築に関する研究

# 認知症対策総合研究推進事業とは

当財団では、厚生労働科学研究費(認知症対策総合研究)の採択課題の研究を支援するため、次の事業を行っています。この公募の案内は、関係する研究者に通知するとともに財団のホームページ(<http://www.tyojyu.or.jp>)にも掲載しています。

## ●外国人研究者招へい事業

当該分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進する事業。

## ●外国への日本人研究者派遣事業

研究代表者又は研究分担者と同一機関に所属する若手日本人研究者を外国の研究機関に派遣し、当該研究課題に関する研究を実施することにより、我が国における当該研究の推進を図る事業。

## ●リサーチ・レジデント事業(若手研究者育成活用事業)

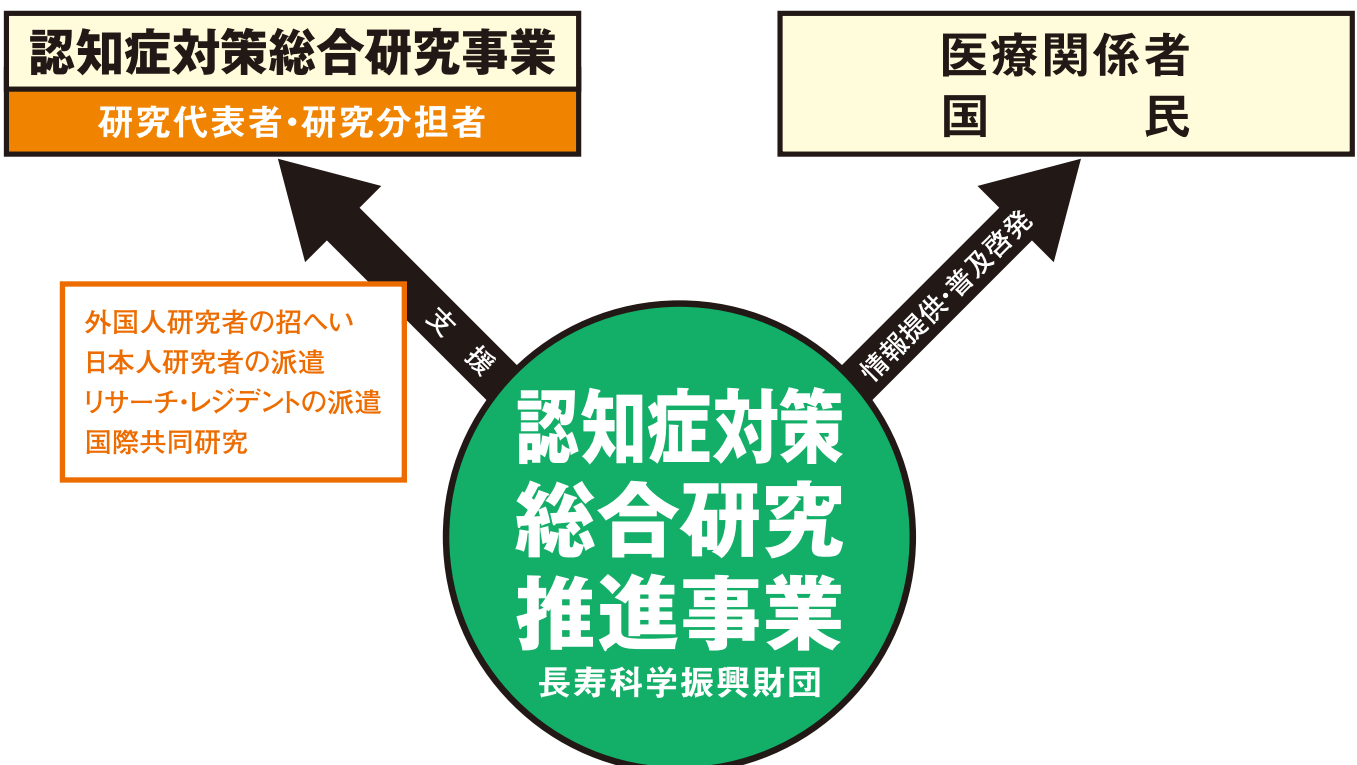
研究代表者又は研究分担者の所属する研究機関に当該研究課題に関する研究に専念する若手研究者を一定期間派遣し、当該研究の推進を図るとともに、将来の我が国の研究の中核となる人材を育成する事業。

## ●国際共同研究事業

外国人研究者と日本人研究者が共同で、当該研究に係る国際共同研究を取り組むことにより、当該研究の推進を図る事業。

## ●研究成果等普及啓発事業

当該研究の研究成果等について、関係の深い分野の専門的研究を行っている研究者や専門的な知識を持たない一般の国民を念頭に置いた発表会の開催及び当該研究事業の取組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、当該研究の一層の推進と科学技術に対する国民の理解の増進、関心の喚起に資することを目的とする事業。



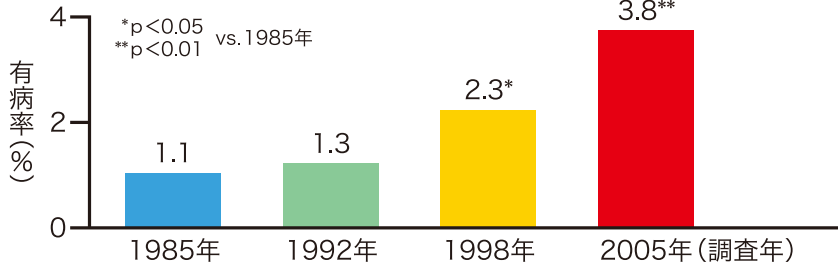
# 厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

## アルツハイマー病の危険因子の解明と予防に関する大規模ゲノム疫学研究

認知症の予防法を確立するために、認知症の有病率調査や、危険因子および防御因子の探索を行っています。

### アルツハイマー病の有病率の時代的变化

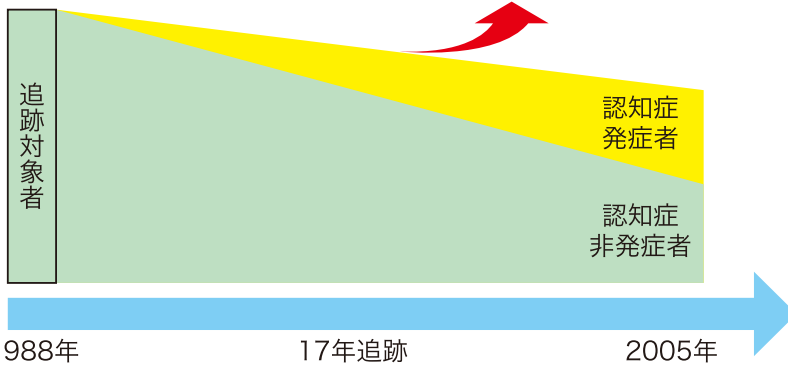
(福岡県久山町住民、65歳以上、性年齢調整後)



認知症、特にアルツハイマー病が増加しています!

### 認知症の危険因子および防御因子の探索

#### 前向きコホート研究



#### 認知症の危険因子

- 高血圧 (中年期から)
- 糖尿病 (特に食後高血糖)
- 遺伝子 (APOE-ε4, PICALM)

#### 認知症の防御因子

- 定期的な運動習慣
- 食習慣 (和食+野菜+牛乳)

1988年

17年追跡

2005年

清原 裕

九州大学大学院医学研究院 教授

## 認知症早期発見のためのツール開発と認知機能低下抑制に関する研究

本研究の目的は、認知機能の低下を早期に発見する方法と、認知機能の低下を予防するプログラムを開発することです。

### 脳活性化 リハビリテーション



運動や料理、回想法等を通じて、人と交流しながら認知機能を活性化させるプログラム。

### 読み聞かせ



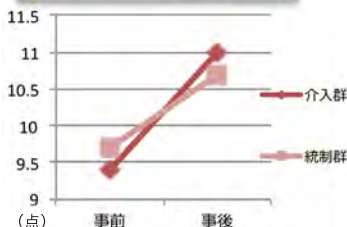
子どもへの絵本の読み聞かせの方法を学習することで、楽しいと感じながら認知機能を刺激するプログラム。

3つの  
プログラムを  
開発しました

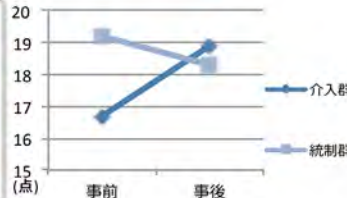
### ウォーキング



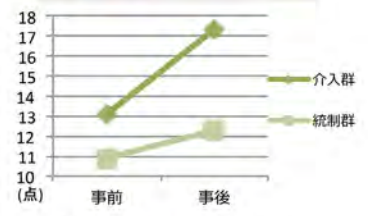
歩数の記録をつけたり、グループでウォーキングイベントを企画して一緒に歩いたりして、楽しみながらウォーキングの習慣化を目指すプログラム。



図：思考機能 (類似課題) の介入効果



図：言語機能 (動物名想起課題) の介入効果



図：記憶機能 (論理的記憶Ⅱ・遅延再生) の介入効果

### ◆結果と普及への取り組み

すべてのプログラムで、一部の認知機能改善効果を示されました。この結果を元に作られたマニュアルが、全国の自治体の介護予防事業で活用されています。また、普及・啓発のための講演会の企画やテキスト作成に取り組んでいます。



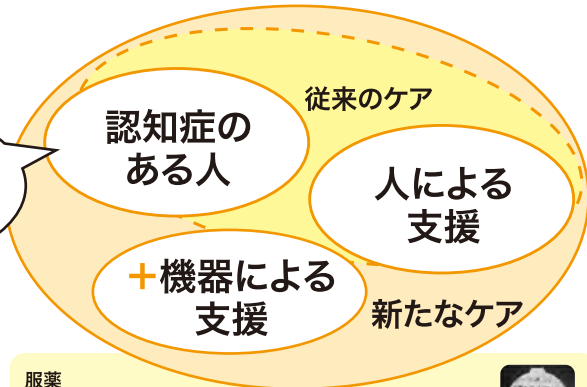
# 厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

## 支援機器を用いた認知症者の自立支援手法の開発

認知症のある人の「地域での自立生活の継続」の支援を目的とし、**従来のケアに支援機器を位置つけた新たなケア手法の確立**を目指しています。  
具体的には、生活全体のケアの中で、機器がどのように活かせるかを明らかにするとともに、**機器を用いた効果的な支援の基盤構築**を進めています。

生活上の課題  
本人のニーズの調査

- ・自分のことは自分でしたい
- ・生活の滞りや不自由をなんとかしたい
- ・安心したい etc.



### 機器の活用

機器による支援の実践

- ・自分でできるようにする
- ・生活の滞りや不自由を軽減する
- ・安心できるようにする

### 支援結果例

#### 服薬

- ・忘れずに飲めるようになった
- ・多重摂取のリスクが減った
- ・自分で出来るようになり、自信を取り戻せた

#### 日付や曜日の把握

- ・間違えずに、通院できるようになった
- ・確実にわかり、安心できるようになった

#### 身の回り品の管理

- ・通帳や鍵をなくしても、見つけられるようになった
- ・見つけられるので、安心し、生活が安定した

#### 家電製品の操作

- ・テレビなどを簡単に操作できるようになった



### 支援の基盤構築

#### 1. 従来のアセスメントへの組み込みとケア関係者の支援

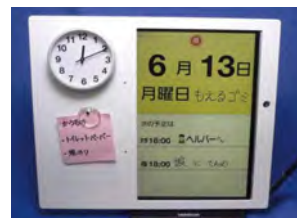
- ・生活全体のアセスメントにおける機器導入検討のための評価項目抽出
- ・導入、使用支援のためのガイド作成

#### 2. 適合技術の開発

- ・機器の効果に関するエビデンスの収集
- ・効果的な支援手法の知見の収集
- ・支援手法マニュアルの作成

#### 3. 早期に実用化が必要な機器の開発

- ・国内での早急な実用化が期待される電子カレンダーの試作、臨床評価



井上 剛伸 | 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長

## 認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究

### 臨床研究・技術開発

もの忘れセンター  
年間1500例のデータベース  
生活機能による早期発見  
iPad心理検査入力  
運動教室、学習教室

### 研修、啓発

サポート医研修  
看護研修  
家族教室  
社会人研修  
公民館出前研修

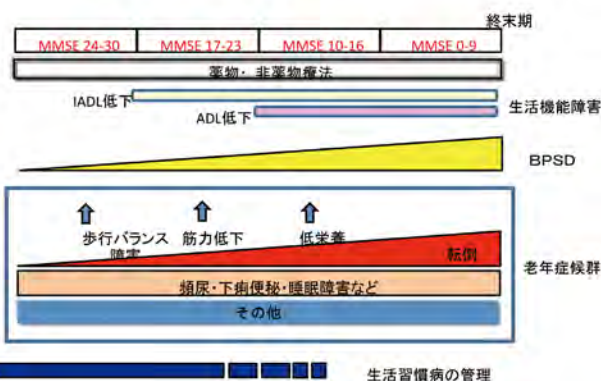
### 政策提言

プロジェクト会議  
今後の認知症  
医療政策に  
大きく貢献

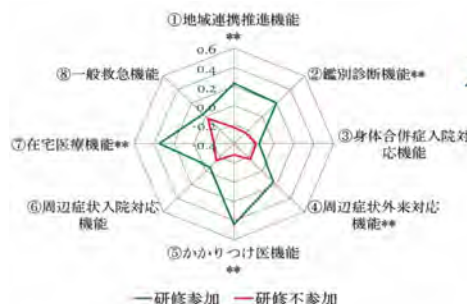
### 1000例の包括的な解析結果

切れ目ない認知症の医療 → 認知症継続診療の提言

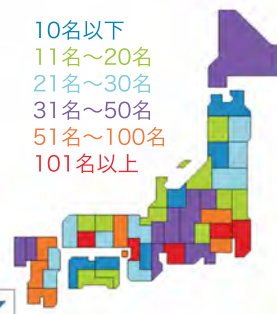
切れ目ない認知症の医療



長寿  
↓  
サポート医研修6/年  
サポート医(1700名)  
↓  
かかりつけ医対応力向上研修  
(25000名)の対応能力第三者評価



10名以下  
11名~20名  
21名~30名  
31名~50名  
51名~100名  
101名以上



鳥羽 研二 | 国立長寿医療研究センター 病院長

## 認知症の実態把握に向けた総合的研究

今現在、日本に何人くらいの認知症の高齢者がいるかを調べています。



会場検診



診察



検査



脳MRI検査



家庭訪問



施設訪問



- 人口の急激な高齢化により、これまでの古い予測データでは現状を反映しきれなくなりつつあります。
  - ・すでに認知症の診断がついている方の身体状況・介護状況などの確認
  - ・まだ診断のついていない方や認知症予備軍の方の診察と検査
- これからの社会に役立てるための  
現状に即したデータを収集
- 今までに全国で7カ所の調査を終え、新たに3カ所の地域を加えて調査しています。

朝田 隆 | 筑波大学 医学医療系臨床医学域 教授

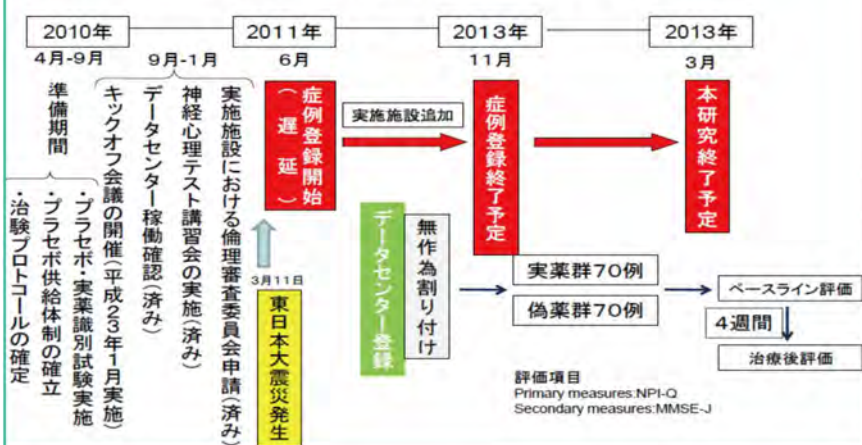
## 認知症に伴う易怒性・妄想などの症状を英語表記でBPSDと呼ぶ。 BPSDは家族の介護負担感を増大させる主要な原因となる

漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証—プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験—

でも漢方薬にはしっかりした治療エビデンスがないね

抑肝散の効果をプラセボを用いて科学的に検証しよう

### 全体実施計画(震災後)



平成24年11月8日までに目標症例数を超える146例の登録を完了した



荒井 啓行 | 東北大学加齢医学研究所 教授

## 公益財団法人 長寿科学振興財団とは

本財団は、国立長寿医療研究センターの設置とともに、国の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」の重要な柱として位置付けられ、各界からの幅広いご支援のもとに、我が国の長寿科学研究を側面から支援する財団として、平成元年12月に設立されました。

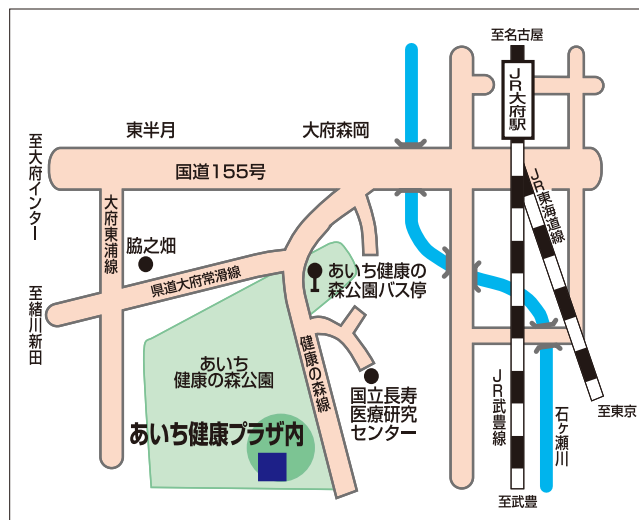
本財団には、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下・皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより、昭和天皇の御遺産から、更に平成13年4月には、香淳皇后の御遺産から御下賜金が賜与されました。

世界一の長寿国である我が国において、長寿科学研究の振興は、極めて重要な事業であることから、厚生労働科学研究の各種推進事業の遂行に努力し、これからも『明るく活力ある長寿社会』の構築に、貢献して参ります。



公益財団法人 長寿科学振興財団

<http://www.tyojyu.or.jp>



公益財団法人 長寿科学振興財団

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1番地1

あいち健康の森 健康科学総合センター4階

TEL.0562-84-5411 FAX.0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp